

## 「西郷隆盛と幕末三舟の書展」 ～江戸無血開城の真の立役者は誰か？～

2018年7月16日（月）～ 2018年7月22日（日）、加島美術（東京都中央区京橋3-3-2）で開催される「西郷隆盛と幕末三舟の書展～書より見た英雄の無心のはたらき～」にて、江戸無血開城についての意外な事実を裏付ける書簡の複製を展示いたします。江戸を戦火から救った本当の英雄は、誰なのか？それが勝海舟ではなく、山岡鉄舟と高橋泥舟であったと考えられる証拠となる貴重な書簡です。本展示会で販売する図録には、本件についての書籍を出版された岩下哲典教授（東洋大学文学部史学科）による寄稿文が掲載されています。「西郷隆盛と幕末三舟の書展」は、会期中無休。入場無料です。



### ◆江戸城無血開城の真の立役者 山岡鉄舟・高橋泥舟

当該の書簡は、全生庵にて所蔵されているもので、徳川慶喜から直々に「一番槍（＝一番の手柄）」は山岡鉄舟であると称賛され、その証拠の品として「来国俊」という短刀を授かったということが書かれていることが、この度の調査で分かりました。書簡内には「高橋君初一同」という表現が使われており、この手紙が、鉄舟の妻・英子すなわち高橋泥舟の実妹に宛てられたものと推測できます。

本書簡は破られ完全な状態ではなく、褒美の短刀も紛失しています。このように重要な史料を、誰がいつ破損したのかは分かっていませんが、もしも完全な形で書簡が残っており、「来国俊」も現存していれば、無血開城の最大の功労者として勝海舟が鎮座することもなかったかも知れません。

また、山岡鉄舟の後ろ盾になっていたのが高橋泥舟であったことと、泥舟が「槍」の名手であったことを考えると、慶喜の賛辞の「一番槍」という表現は、泥舟とまったく無関係とも考えにくいのではないのでしょうか。後世の私たちは、歴史のいたずらについて考えざるを得ません。今回の展示会では、この貴重な史実を物語る書簡の複製が展示され、展示会で販売される図録にも収録されます。

歴史の常識に一石を投じる作品も揃う「西郷隆盛と幕末三舟の書展」にぜひご来場ください。

### ◆本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社 加島美術 広報担当：渡邊、後藤 / 電話番号：03-3276-0700

Email：pr@kashima-arts.co.jp / Webページ：http://www.kashima-arts.co.jp/events/sanshu/index.html